

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700450		
法人名	企業組合 嶺南グループホーム		
事業所名	企業組合 嶺南グループホーム		
所在地	岐阜県瑞穂市古橋1357番地1		
自己評価作成日	令和5年9月24日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2170700450-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな当ホームは1ユニットである事から大家族の様に和気あいあいと生活している。ホームの庭で穫れたり近所の方々からいただく野菜が食卓に並び季節を味わうことができている。入居者も言いたいことが言え、やりたいことができる様な雰囲気の中、残存機能が活かされる様作業療法、レクリエーション等に力を入れている。感染予防しながら外出の機会も増やしていきコロナ前の様に地域の方々との交流もしていきたい。入居者の方々にとっては終の棲家になりうるであろう当ホームが居心地の良い場所であるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、毎日の食事準備は利用者と共に行動など、家庭的な雰囲気を大切にしている。利用者全員が出来ること、得意なこと、役を担いながら準備に関わっており、多くの利用者が、包丁を使っている。入居前は、食事準備などが出来なかった利用者が、みんなで準備することで少しずつ作業が出来るようになってきている。職員は利用者一人ひとりが出来ること、やりたい事を自由に出来るようサポートし、穏やかに暮らせるよう支援している。管理者は、常に職員のステップアップを支援しており、大多数の職員が介護福祉士資格を有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを踏まえた理念をあげ、それに沿った支援を行うために職員一人ひとりがテーマを決め学び他の職員とそれらを共有し実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。理念を実践するために、職員個人の目標、事業所全体で取り組む課題を設定し、全職員が理念や意義を理解した上で、その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在もコロナ禍の影響により月1回開催していたワンコイン喫茶、くつろぎカフェに出向いての地域の方々との交流は中止しているが、地域活動の再開状況を見ながら参加していく予定である。また、ホームでの様子は地域の方々定期的に文書でお知らせしている。	コロナ禍で、近隣とのつきあいは自粛していたが、近々、地域ふれあい交流会が再開されることで、参加の予定である。ホームの様子や行事についての文書を近隣に配布したり、代表が地域の行事に参加し、出来る範囲での交流に努めている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在 運営推進会議は民生委員、地域包括支援センター、もつす広域連合会、入居者、職員で行っている。地域の方々には毎回文書で報告し意見等は電話で受け付けている。今後は状況を見ながらではあるが、以前の様に地域の方々にも参加してもらえよう努めていく。	運営推進会議は、地域のコロナ感染拡大状況を見ながら、書面会議や対面にて開催している。参加できない構成員には文書で報告し、意見を聞いている。徐々に以前の体制に戻す予定としている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議の参加を依頼し入居者の状況を報告し、介護相談員が月1回訪問し行政との連携に努めている。また、介護保険審査会、みずほおれんちぶろじえくとに職員を派遣し協力関係を築いている。	運営推進会議には行政の参加を得ており、地域のコロナ感染拡大状況や高齢化について、様々な情報の提供がある。市の行事予定などを参考にし、介護相談員の受け入れや、「みずほ♡おれんちぶろじえくと」など、積極的に参加している。行政窓口へ出向いたり、オンラインで現場の声を伝え、指導や協力を得ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し運営推進委員会で行政とともに話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。また、ホーム内勉強会を行い職員同士日々のケアを振り返りながら話し合い、身体拘束についての知識を深め理解に努めている。	身体拘束廃止委員会を運営推進会議の中で行い、委員と共に、ヒヤリハットを含めて、身体拘束の弊害等について話し合っている。職員全体で拘束しないケアを目指し、学習を重ねている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はホーム内勉強会にて虐待について学んでいる。カンファレンス時に言葉をはじめ見過ごされている虐待がないか話し合い、入居者の様子をよく観察し聞きながら注意を払っている。	身体拘束、虐待防止は重要課題であり、職員の年間の学習計画に組み入れ、学んでいる。管理者は、職員が心身のストレスを抱えていないか、利用者への不適切ケアに繋がっていないか、気づいた時には声かけをしている。また、ハラスメント対策の指針を作成し、虐待に関する意見や職員の報告を求めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は定期的に関われる勉強会の中で権利擁護に関する制度の理解を深め学んでいる。必要な入居者がいる場合は速やかに対応できるようにしている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前には契約に関する重要事項や入居する際の細かい内容等、声に出し説明し理解・納得していただけるようにしている。疑問点や不安な事に関しては丁寧に説明・お答えし了承していただき安心して入居されることができるようになっている。制度改正がある場合等は再度説明し同意を得ている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月入居者の様子を担当職員が自筆で記入したホーム便りをご家族様に郵送しており、その中でいつでもご意見ご要望をいただける様お知らせしている。玄関には意見箱を設置し訪問・面会時等に気軽に利用できるようになっている。また、電話、メール等使用して気軽に話しやすい雰囲気作りに配慮している。コロナに対する取り組みや面会状況についてはその都度お知らせしている	毎月、ホーム便りとして、職員が利用者の様子を詳細に記載し、利用者も自筆で書いた家族への手紙を併せて送付している。本人からの便りは、家族にとっても驚きと喜びであり、家族とのつながりを深めている。意見交換もスムーズにでき、信頼関係が出来ている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は月1回のカンファレンスや休憩を利用して、職員からの問題点や提案を聞き、早期に改善できるよう努めている。職員が意見や要望を出しやすいような雰囲気作りをしている	「企業組合巣南」の名称は、全職員が互いに意見を出し合い、より良いホームを運営するという目的で付けられている。職員は地元の人が多く、勤続年数も長い。互いに遠慮なく意見を出し合い、尊重し合って改善につなげている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	コロナ感染症対策として予防接種が優先摂取できるよう市に働きかけ、また、県推進の予防的検査を実施し職員の不安を軽減している。職員各自には係や担当を決め各々が仕事にやりがいを持てるようにしている。代表者は職場環境条件の整備にも努力している	職員の家庭の事情も考慮し、雇用条件も明確である。一人ひとりのワーク・ライフ・バランスにも配慮した就労条件の整備に努めている。休憩室も確保されており、休憩時間は職員間で話し合っ決めて決めている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に事業所内外に研修の参加を推進し職員個々に必要な研修を受けることができるよう配慮している。オンライン開催も利用している。また、各自が1つ課題を持ち学習しカンファレンス等の場で発表して皆で知識を深めている	管理者は、職員個々の学習意欲の向上と時間の提供にも配慮しながら研修受講を奨励し、多くの職員が介護福祉士の資格を取得している。職員は介護の専門職としてのモチベーションを高め、より良い利用者サービスにつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム協会に所属し情報交換や知識の研鑽を行いサービスの向上に役立っている。ネットワーク作りとして介護認定審査会に職員を派遣している。また、みずほおれんぢぶろじえくとの活動にも積極的に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気的大事にし、毎日のコミュニケーションの中から入居者一人ひとりの得意分野、個性等を見出し、職員と一緒に作業、リクリエーション、食事等出来る範囲での生活を共にする事で感情の共有が出来るようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の視点に立って、出来る限り気持ちに寄り添い職員同士意見を出し合いより良い方法を考えている。	職員の多くは勤続年数も長く、日々、利用者寄り添っている。日頃の会話の中で、本人が何を求め、何が不足しているかを、長年の経験と利用者との関係性で思いの把握をしている。把握した情報は職員間で共有し、介護計画に活かしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時や必要時には介護記録を基に本人と家族の思い、要望の変化を確認し毎回アセスメント、モニタリングを行い計画を立てている。	ケアマネジャーは看護師でもあり、利用者の健康状態を把握し、家族には訪問時やメール等で連絡している。外部評価の利用者家族等のアンケートも、家族全員が提出している。計画作成は事業所全体で検討し、その都度家族の同意を得ている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の介護ファイルに全職員が記入できる気づきメモを使用し、日常の細かな変化を見逃さない様に記録し介護計画の見直しに役立っている。	介護記録ファイルや申し送りの記録は、職員の見やすい場所に保管している。さらに「気づきメモ」でも、日々の利用者の様子や変化などを記載し、職員間で共有している。介護計画は柔軟に見直しながらケアに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々希望、状況に応じ出来る限り家族、入居者の要望に添えられる様、必要な支援、サービスの提供に努めている。	専門医への受診に家族が同行できない場合は、事業所が同行している。家族の希望で、サプリメントの服用や買い物代行等、支援している。利用者の要望にはできるだけ応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会に地域の方が入っており現在は地域行事参加見合わせ中のため事業所内の行事参加を促し、交流を図っている。災害時は近隣の地域住民の方へご協力をお願いをしております安全な生活ができるようにしている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医や必要に応じて他の医療機関への受診を行い、職員間でも連携をとり支援に努めている。必要時は家族の通院同行や付き添いもしてもらうようにしている。	契約時に、かかりつけ医について、家族と利用者に説明している。受診は家族対応を基本とし、必要時は事業所で対応を行っている。医師と看護師が連携を図り、緊急時も利用者が適切な医療を受けられる支援体制がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族に早急に連絡をし入院についての説明をし入院先での医師からの病状説明を聞いてもらっている、事業所と病院が情報提供、情報交換を行い退院に向けて相談をしあい関係作りを行っている。	入退院時は、看護師が責任を持ち、医療機関と対応している。退院時には、家族を含めて医師からの説明を聞き、事業所の職員と話し合いながら、安心・安全な支援体制を整えて迎えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期の対応は契約時に家族に事業所の指針の同意を得ている。病状変化の説明はかかりつけ医や看護師から助言を受けケアマネージャーから家族に説明し連絡している。	契約時に、重度化や終末期の対応について事業所の指針を説明し、利用者・家族は同意している。病状の変化時は、早い段階で医師の意見を踏まえて話し合い、事業所で出来る対応を説明している。地域の医療機関や他施設等の情報も提供している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調急変、事故発生時は職員間で連携し応急手当ができるようにしている。ヒヤリハットを活用し急変時対応を共有し常に検討している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、近隣地域住民の方との訓練は見合わせ中のため事業所のみで火災・洪水時垂直避難訓練を入居者と実施している。緊急時の連絡方法、備蓄品の確認、補充も定期的に行っている。	年3回防災訓練を行い、備蓄品の点検等も行っている。コロナ禍で地域住民参加の訓練は中止しているが、運営推進会議等で話し合い、地震、水害等の訓練、対策の意見交換を行う予定である。地域の防災訓練に参加し協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の自尊心を傷つけないよう、適切な言葉かけ、対応に努めている。また、随時ホーム内勉強会や研修により職員の意識向上を図るよう取り組んでいる。	職員は、接遇や個人情報・プライバシー保護の研修を重ね、利用者一人ひとりの人格の尊重や自尊心を傷つけない対応に努めている。特に会話時には、本人の誇りを損ねないよう、常に敬う言葉かけを心掛けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を話すことの出来る時間、環境作りに努めている。自分の希望をうまく伝えられない入居者にはいくつかの選択肢を提案し、自己決定が出来るよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がその人らしい暮らしを送るため、これまでの生活歴を把握すべく日々のケアの中でコミュニケーションを取り、情報収集に努めている。これまでの生活歴をもとに一人ひとりの思いや希望に添った過ごし方が出来るよう支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の残存機能を活かし、野菜の下ごしらえ等の作業を行っている。入居者一人ひとりに合った食事形態で提供する事により、自身の力で食事摂取が出来るよう支援している。	食事は、事業所の庭で育てた野菜や地域住民からの差し入れを活用しながら、3食手作りで提供している。多くの利用者が包丁を使うことができ、下準備を手伝っている。また、調理や保存方法などについて利用者と会話しながら、同じ物を食している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に毎回肉類、魚、野菜、果物、乳製品と色分けして記録をする事で栄養バランスを可視化できるようにしている。また、一人ひとりの食事量、水分量を毎食チェックし、栄養不足、水分不足にならないよう対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の疾患を予防し、口腔の機能を維持できるように入居者の能力に応じた声かけをし、毎食後口腔ケアを行っている。また、必要に応じて協力歯科医への受診や往診をしてもらい、口腔管理と疾患の早期発見、早期治療が出来るよう支援している。	毎食後、利用者自身が出来る範囲で口腔ケアを行い、職員は見守りをしながら、最後の確認を行っている。必要に応じて歯科医の往診もあり、治療やケアを行っている。口腔ケアの大切さを、職員間で定期的に話し合っている。	

岐阜県 企業組合巣南グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方一人ひとりの排泄のパターンや状態に寄り添いながら声かけや時には誘導を行い自立に向けてトイレでの排泄ができるように支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の状態や希望をタイミングを図りながら気分よくリフレッシュできるように支援している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしながら日中の活動を促し気分良く休息が取れたり良く眠れるように支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋ファイルにて服薬の種類や用法や副作用等が把握できるようにしている。1日複数回検温を行い状態観察し症状の変化の確認に努めている。必要な方には血圧を2回測り状態観察や変化の確認にも努めている。	服薬管理は看護師が行い、職員は服薬の種類、用途、副作用などについて把握している。服薬時は、利用者が飲み終わるまでを確認している。薬の変更があった時には、職員間で利用者の状態観察と症状の変化を見逃さず、看護師等に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や社会活動参加等の特技を考慮し、自らが積極的に活動できるように支援している	食事の準備は、ほとんどの利用者が参加している。また、洗濯物畳みや部屋の片付けなども、自分の仕事として自信を持って取り組んでいる。職員は、「ありがとう、助かります」の声掛けをすることで、利用者の張り合いにつなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも5類になり外出が少しずつできるようになり、外出(桜・バラ見学)に出かけている。これからも個々に寄り添いながら家族や地域の人々を巻き込みながら支援していく。	コロナ禍で外出は自粛しているが、広い庭で畑の野菜や花を見ながら散歩を楽しんでいる。コロナ禍前に出掛けていたバラや桜の花見など、徐々に再開していく予定である。	今後は、感染症の拡大状況を見た上で、以前のように利用者の希望を聞き、家族の協力を得ながら、利用者が満足できる外出支援の実施に期待したい。

岐阜県 企業組合巣南グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な物は家族にお願いして購入してもらっている。また少額の買い物であれば預かっている小遣いの中から本人の希望を聞いて買うことができるよう支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から要望があれば電話をかけたり、かかってきた電話に出てもらって自らお話しすることができるよう支援している。また、文章を書くことが難しくなってきた方が多いがホーム便りに一人ひとりの記入枠を設け自らが家族にメッセージを伝えられる様支援している		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓から見える景色、庭の草花で季節を感じとってもらっている。陽ざしの強い時期には日よけを使用し眩しさを軽減している。また、ホームの畑で収穫した新鮮な野菜や果物を使い職員手作りの食事を一緒にいただいている。	リビングの大きな窓からは、庭や花畑を見渡すことができ、玄関には、利用者が季節の花を飾るなど、季節を感じられる工夫がある。水墨画や季節感溢れる職員との協働作品等も飾っている。利用者は、対面式キッチンからも見守られながら、思い思いの場所で過ごすことができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	起床から就寝までの一日の大半はリビングで過ごしてもらっている。また、入居者同士や職員とも会話を楽しんだり思い思いに過ごしたり出来るよう配慮している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族や本人と相談して今まで使い慣れた物を置くよう配慮している。ご家族からの手紙や絵、写真等を居室に飾り本人が落ち着いて居心地よく生活できるようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室にも手摺を取り付けて安全確保に努めている。また、履物を履いたり脱いだりできる方には玄関に椅子が設営してあり職員見守りのもと残存機能を活用できるように支援している。		